

頻用されている第Ⅷ因子製剤一覧（半減期標準型製剤;SHL）

2025年4月

販売名	クロスエイトMC	アドバイト	コバールトリイ	ヌーイック	エイフスチラ	ノボエイト	
製品画像							
分類	血漿分画製剤	遺伝子組み換え製剤	遺伝子組み換え製剤	遺伝子組み換え製剤	遺伝子組み換え製剤	遺伝子組み換え製剤	
一般名	乾燥濃縮人血液凝固第Ⅷ因子	ルリオクトコグアルファ	オクトコグ ベータ	シモクトコグ アルファ	ロノクトコグ アルファ	ツロクトコグ アルファ	
溶液量	5mL	5mL	250単位 -1000単位2.5mL 2000単位以上は5mL	2.5mL	250単位 - 1000単位2.5mL 2000単位以上は5mL	4mL	
半減期	15.1時間	13 ± 3.7時間 (国内,10歳以上 n=11)	12.8時間 (国内,12歳以上, n=4)	17.3 ± 4.9時間 (国内,18歳以上 n=9)	16.4 時間 (国内,12歳以上 n=10)	12.61±5.07時間 (国内,12歳以上 n=6)	
用法	添付の溶解液 5 mLで溶解し、 緩徐に静脈内注射又は点滴注入。 1分間に 5 mLを 超える注射速度は避ける。	添付の溶解液全量で溶解し、 緩徐に静脈内注射する。 1分間に10mLを 超える注射速度は避ける。	添付の溶解液全量で溶解し、 緩徐に静脈内注射する。 1分間に5mLを 超える注射速度は避ける。	添付の溶解液全量で溶解し、 緩徐に静脈内投与する。 1分間に4mLを 超える注射速度は避ける	添付の溶解液全量で溶解し、 緩徐に静脈内に 注射する。	添付の溶解液全量で溶解し、 1~2mL/分で緩徐に静脈内に 注射する。	
用量 (1回あたり)	250~2,000 IUを 投与する。 (適宜増減)	体重1kg当たり 10~30 IUを投与する (適宜増減)。	通常；体重1kg当たり10~ 30IUを投与する(適宜増減)。 定期的投与時；体重1kg 当たり20~40IUを週2又は 週3回投与 12歳以下の小児；体重1kg 当たり25~50IUを週2回、 週3回又は隔日投与する。	通常;体重1kg当たり10~30IUを投与 する(適宜増減) 定期的投与時;12歳以上は体重1kg当 たり30~40IUを週3回又は隔日投与する。 患者の状態に応じ、投与量は体重1kg当 たり65IUを超えない範囲で、投与間隔 は3~5日の範囲で適宜調節することも できる。12歳未満の患者には、体重 1kg当たり30~50IUを週3回又は隔日 投与する。	体重 1 kg当たり10~30IUを 投与する。(適宜増減) 定期的に投与する場合、通常、 体重 1 kg当たり20~50IUを 週2回又は週3回投与する。	1回体重1kg当たり10~30IUを投 与する。(適宜増減) 定期的に投与する場合、体重1kg当 たり20~40IUを隔日投与、又は 20~50IUを週3回投与。 12歳未満の小児に対しては体重 1kg当たり25~50IUを隔日投与、 又は25~60IUを週3回投与する。	
貯法	30℃以下で凍結を 避けて保存	2~8℃で凍結を避けて保存	2~8℃で凍結を避けて外箱に 入れた状態で保存	2~8℃で凍結を避けて外箱に入 れた状態で保存	2~8℃で凍結を避けて外箱に 入れた状態で保存	2~8℃で凍結を避けて外箱に 入れた状態で保存	
家庭で保存 する場合	記載なし	室温(30℃以下)で 保存した場合は 6か月以内に使用	室温(30℃以下)で保存し た場合は 6か月以内に使用	15℃~25℃で 保存した場合は 3か月以内(250単位のみ 1か月)に使用	25℃以下で保存 した場合は3か月以内に 使用	30℃~40℃で保存した場 合は3か月、室温(30℃以 下)で保存した場合は 12か月以内に使用	
溶解後の安定性等	1時間以内に使用	冷蔵せず、 3時間以内に使用	30℃以下で 3時間以内に使用	15~25℃で 3時間以内に使用	25℃以下で 4時間以内に使用	2~8℃で保存する場合は 24時間以内、30℃以下で 保存する場合は 4時間以内に使用	
規格 及び 薬価 (2025.4)	250単位	34,938円	15,180円	20,982円	22,543円	21,584円	12,040円
	500単位	34,938円	30,854円	46,645円	41,865円	42,005円	27,129円
	1000単位	65,228円	55,651円	75,382円	77,750円	77,898円	62,012円
	1500単位	-	83,305円	-	-	106,528円	68,383円
	2000単位	120,669円	98,834円	138,752円	144,395円	144,516円	99,009円
	2500単位	-	-	-	176,210円	176,238円	-
	3000単位	172,932円	138,720円	197,161円	207,370円	207,404円	144,307円
	4000単位	-	-	-	268,164円	-	-

頻用されている第Ⅷ因子製剤一覧（半減期延長型製剤,EHL）

2025年4月

販売名	アディノバイト	イスパロクト	イロクテイト	エイフスチラ	ジビイ	オルツピーオ	
製品画像							
分類	遺伝子組み換え製剤	遺伝子組み換え製剤	遺伝子組み換え製剤	遺伝子組み換え製剤	遺伝子組み換え製剤	遺伝子組み換え製剤	
一般名	ルリオクトコグ アルファ ペゴル	ツロクトコグ アルファ ペゴル	エフラロクトコグ アルファ	ロノクトコグ アルファ	ダモクトコグ アルファ ペゴル	エフアナソクトコグ アルファ	
溶液量	5mL	4mL	3mL	250単位 - 1000単位2.5mL 2000単位以上は5mL	2.5mL	3mL	
半減期	20.6 (17.2, 20.6) (国内,12歳以上 n=2)	18.98 時間 (国内/海外,成人 n=24)	16.4 時間 (国内,成人 n=12)	16.4 時間 (国内,12歳以上 n=10)	16.3 時間 (国内,12歳以上 n=4)	52.2 時間 (国内,18歳以上 n=12)	
用法	溶解液全量で溶解し、緩徐に静脈内注射する。1分間に10mLを超える注射速度は避ける。	専用溶解液全量で溶解し、1~2mL/分で緩徐に静脈内に注射する。	溶解液全量で溶解し、数分かけて緩徐に静脈内に投与する。	溶解液全量で溶解し、緩徐に静脈内に注射する。	溶解液全量で溶解し、緩徐に静脈内注射する。1分間に2.5mLを超える注射速度は避ける。	溶解液全量で溶解し、緩徐に静脈内に投与する。	
用量 (1回あたり)	通常、体重1kg当たり10~30IUを投与する(適宜増減)。定期的投与時:12歳以上には、体重1kg当たり40~50IUを週2回投与、状態に応じて、40~50IU/kgを2日間隔、40~80IU/kgを3~7日間隔で投与できる。ただし、投与間隔を4~7日に延長する場合は、一定期間出血が認められないことを確認し、5日間隔→7日間隔投与と段階的に延長すること。12歳未満には、40~60IU/kgを週2回投与するが、状態に応じて、40~60IU/kgを2日間隔、40~80IU/kgを3~4日間隔で投与できる。ただし、投与間隔を4日間隔に延長する場合は、一定期間出血が認められないことを確認。	通常、体重1kg 当たり 10~30IUを投与する(適宜増減)。定期的投与時:12歳以上には、体重1kg当たり 50IUを4日毎に投与する。なお、状態に応じて、体重1kg 当たり 50IUを週2回又は体重1kg当たり 75IUを週1回投与することもできる。12歳未満には、通常、体重1kg 当たり 60IUを週2回投与する。なお、状態に応じて、体重1kg 当たり50~75IUを週2回又は3日毎に投与することもできる。	通常:体重1kg当たり10~30IUを投与する(適宜増減)。定期的投与時:通常、1日目に体重1kg当たり25IU、4日目に体重1kg当たり50IUから開始し、以降は患者の状態に応じて、投与量は1回体重1kg当たり25~65IU、投与間隔は3~5日の範囲で適宜調節する。週1回の投与を行う場合は、体重1kg当たり65IUを投与する。	体重1kg当たり10~30IUを投与する。(適宜増減) 定期的投与する場合、通常、体重1kg当たり20~50IUを週2回又は週3回投与する。	通常、12歳以上には、体重1kg当たり10~30IUを投与する(適宜増減)。定期的投与時:通常、12歳以上の患者には、体重1kg当たり30~40IUを週2回投与するが、状態に応じて、体重1kg当たり45~60IUを5日に1回投与、又は体重1kg当たり60IUを週1回投与することもできる。	出血時又は周術期に投与する場合、通常、1回体重1kg当たり50IUを投与する(適宜増減)。定期的に投与する場合、通常、体重1kg当たり50IUを週1回投与する。	
貯法	2~8℃で凍結を避けて保存	2~8℃で凍結を避けて外箱に入れた状態で保存	2~8℃で凍結を避けて外箱に入れた状態で保存	2~8℃で凍結を避けて外箱に入れた状態で保存	2~8℃で凍結を避けて外箱に入れた状態で保存	2~8℃で凍結を避けて外箱に入れた状態で保存	
家庭で保存する場合	室温(30℃以下)で保存した場合は3か月以内に使用	30℃-40℃で保存した場合は3か月、室温(30℃以下)で保存した場合は12か月以内に使用	室温(30℃以下)で保存した場合は6か月以内に使用	25℃以下で保存した場合は3か月以内に使用	室温(30℃以下)で保存した場合は3か月以内に使用	室温(30℃以下)で保存した場合は6か月以内に使用	
溶解後の安定性等	冷蔵せず、3時間以内に使用	2~8℃で保存する場合は24時間以内、30℃以下で保存する場合は4時間以内に使用	30℃以下で6時間以内に使用	25℃以下で4時間以内に使用	30℃以下で3時間以内に使用	30℃以下で3時間以内に使用	
規格 及び 薬価 (2025.4)	250単位	28,105円	-	20,701円	21,584円	-	49,543円
	500単位	55,451円	-	37,833円, 60,968円(750単位)	42,005円	61,861円	99,085円
	1000単位	101,465円	124,632円	73,824円	77,898円	133,264円	198,171円
	1500単位	147,736円	178,508円	107,850円	106,528円	-	-
	2000単位	173,724円	230,339円	142,310円	144,516円	217,252円	396,341円
	2500単位	-	-	-	176,238円	-	-
	3000単位	261,956円	305,201円	210,622円	207,404円	345,929円	594,512円
	4000単位	-	-	289,378円	-	-	792,683円

頻用されている第Ⅸ因子製剤一覧

2025年4月

半減期別分類		半減期標準型 (SHL)			半減期延長型 (EHL)	
販売名		ノバクトM	ベネフィクス	オルプロリクス	イデルピオン	レフィキシア
製品画像						
分類		血漿分画製剤	遺伝子組み換え製剤	遺伝子組み換え製剤	遺伝子組み換え製剤	遺伝子組み換え製剤
一般名		乾燥濃縮人血液凝固第Ⅸ因子	ノナコグアルファ	エフトレノナコグ アルファ	アルプトレパノナコグ アルファ	ノナコグ ベータ ペゴル
溶体量		5mL	5mL	5mL	250単位 - 1000単位2.5mL 2000単位以上は5mL	4mL
半減期		24.0 時間 (国内,成人 n=20)	24.5 ± 5.4時間 (海外,15歳以上 n=37)	79.37 時間 (国内,成人 n=6)	104.2 時間 (国内および海外,成人 n=47)	83 時間 (国内および海外,成人 n=6)
用法		添付の日本薬局方注射用水で溶解し、 静脈内に緩徐に注射する。	添付された溶解液を全量用いて 溶解し、数分かけて緩徐に静脈内 に注射する。	添付の溶解液全量で溶解し、数分 かけて緩徐に静脈内に注射する。	添付の溶解液全量で溶解し、 緩徐に静脈内に注射する。	専用溶解液全量で溶解し、 4mL/分を超えない速度で緩徐に 静脈内に注射する。
用量 (1回あたり)		通常1回血液凝固 第Ⅸ因子800~1,600IUを 投与。	初回用量は通常、本剤50IU/kgと するが、患者の状態に応じて適宜 増減できる。また、次回以降は患 者の状態、血液凝固第Ⅸ因子の 上昇値に応じて適宜増減する。	通常、体重 1 kg当たり50国際単位を投 与するが、患者の状態に応じて適宜増減 する。 定期的に投与する場合、通常、体重 1 kg 当たり50国際単位を週 1 回投与、又は 100国際単位を10日に 1 回投与から開 始する。以降の投与量及び投与間隔は患 者の状態に応じて適宜調節するが、1 回 の投与量は体重 1 kg当たり100国際単 位を超えないこと	通常、1 kg当たり50IUを投与する(適宜増減)。 定期投時：体重 1 kg当たり35~50IUを 7 日に 1 回投与 する。また、状態に応じて、体重 1 kg当たり75IUの14 日に 1 回投与に変更することもできる。さらに、14日に 1 回投与し、6 カ月以上状態が安定している12歳以上の 患者では、体重 1 kg当たり100IUの21日に 1 回投与に 変更することもできる。いずれの投与間隔においても投与 量は7 日又は14日に 1 回投与の場合は 体重 1 kg当たり 75IUを、21日に 1回投与の場合は 体重 1 kg当たり 100IUを超えないこと。	40IU/kg を週 1 回投与する。
貯法		30℃以下で凍結を避けて保存	30℃以下で凍結を避けて保存	2~8℃で凍結を避けて外箱に 入れた状態で保存	2~25℃で凍結を避けて外箱に入れ た状態で保存	2~8℃で凍結を避けて外箱 に入れた状態で保存
家庭で保存 する場合		記載なし	記載なし	室温(30℃以下)で保存した場 合は6か月以内に使用	記載なし	室温(30℃以下)で遮光保存し た場合は6か月以内に使用
溶解後の安定性等		1時間以内に使用	3時間以内に使用	30℃以下で6時間 以内に使用	25℃以下で4時間	2~8℃で24時間、30℃ 以下で4時間
規格 及び 薬価 (2025.4)	250単位	-	-	-	89,117円	-
	500単位	42,538円	42,154円	103,583円	175,908円	216,190円
	1000単位	46,213円	73,078円	212,839円	343,931円	427,565円
	1500単位	-	-	-	-	-
	2000単位	63,694円	153,659円	403,503円	670,739円	845,605円
	3000単位	-	-	627,346円	-	-
	3500単位	-	182,801円	-	1,183,021円	-
	4000単位	-	-	778,393円	-	-

VWD, インヒビター用製剤等一覧

2025年4月

販売名	コンファクトF	ボンバンディ	ファイバ	バイクロット	ノボセブン	オビザー
製品画像						
分類	血漿分画製剤	遺伝子組み換え製剤	血漿分画製剤	血漿分画製剤	遺伝子組み換え製剤	遺伝子組み換え製剤
一般名	乾燥濃縮人血液凝固第Ⅷ因子	ポニコグ アルファ	乾燥人血液凝固因子抗体迂回活性複合体	乾燥濃縮人血液凝固第Ⅷ因子加活性化第Ⅶ因子	エプタコグ アルファ	スソクトコグ アルファ (ブタ配列血液凝固第Ⅷ因子製剤)
溶液量	250,500,1000単位の順で 5mL, 10mL, 20mL	10mL	20mL	2.5mL, 5mL, 10mL	1,2,5mgの順で 1.1mL, 2.1mL, 5.2mL	1mL
半減期	11.6 時間(第Ⅶ因子) 16.1 - 25.6時間(RCof)	22.6±5.34時間 (国内外, n=14)	4~8時間と推察	2.79 ± 0.61時間(第Ⅶ因子) 22.66 ± 1.51時間(第Ⅷ因子)	3.5 時間	3.4 時間 (国内,成人 n=5)
用法	250IUあたり注射用水5mLで溶解し、緩徐に静脈内に注射又は点滴注入する。1分間に5mLを超える注射速度は避ける。	添付の溶解液10 mLで溶解し、4 mL/分を超えない速度で緩徐に静脈内に注射する	添付の溶剤で溶解し、緩徐に静注又は点滴静注する(1分間に2単位/Kgをこえる注射速度はさける)。	1バイアルを添付の注射用水で溶解し、2~6分かけて緩徐に静脈内に注射する	製剤に添付された専用溶解液を全量用いて溶解し、2~5分かけて静脈内に注射する。	添付の日本薬局方注射用水1mLで溶解し、緩徐に静脈内に注射する。
用量 (1回あたり)	〈血友病A〉 通常1回に血液凝固第Ⅷ因子活性で250~2,000IUを投与する(適宜増減)。 〈von Willebrand病〉 通常1回にリストセチンコファクター活性(RCof)で750~6,000IUをを投与する(適宜増減)。	通常18歳以上の患者には、体重1kgあたり40~80IUを投与する(適宜増減)。	出血時に投与する場合: 通常体重1kg当たり50~100単位を8~12時間間隔で投与する(適宜増減)。ただし、原則として1日最大投与量は体重1kg当たり200単位をこえないこととする。定期的に投与する場合、通常体重1kg当たり70~100単位を1日おきに投与する。	出血時に投与する場合、活性化人血液凝固第Ⅶ因子として、体重1kg当たり1回60~120μgを投与する。追加投与は、8時間以上の間隔をあけて行い、初回投与の用量と合わせて、体重1kg当たり180μgを超えないこととする。定期的に投与する場合、活性化人血液凝固第Ⅶ因子として、体重1kg当たり1回60~120μgを1~2日おきに投与する。	インヒビターを保有する先天性血友病患者: 初回投与量90μg/kgとする。その後60~120μg/kgを投与(適宜増減)。初期は臨床的改善が観察されるまで、2~3時間ごとに投与する。その後も継続するときは、投与間隔を適宜延長する。なお、軽度から中等度の出血に対しては270μg/kgを単回投与することができる。後天性血友病患者: 初回投与量は90μg/kgとする。その後は1回投与量として60~120μg/kgを投与(適宜増減)。初期は臨床的改善が観察されるまで、2~3時間ごとに投与する。その後も継続するときは、投与間隔を適宜延長する。先天性第Ⅷ因子欠乏症患者: 15~30μg/kgを止血が得られるまで4~6時間ごとに投与する(適宜増減)。また、投与間隔も適宜調整できる。	18歳以上の患者には、初回投与量は体重1kg当たり200単位とする。その後は、出血の程度に応じて、血液凝固第Ⅷ因子活性や患者の状態を確認しながら投与量と投与頻度を調節する。
貯法	10℃以下で凍結を避けて保存	30℃以下で凍結を避けて外箱に入れた状態で保存	2~8℃で凍結を避けて保存	10℃以下で凍結を避けて外箱に入れた状態で保存	30℃以下で凍結を避けて保存	2~8℃で凍結を避けて保存
家庭で保存する場合	室温(30℃以下)で保存した場合は6か月以内に使用	記載なし	記載なし	室温(30℃以下)で保存した場合は6か月以内に使用	記載なし	記載なし
溶解後の安定性等	1時間以内に使用	3時間以内に使用	1時間以内に使用すること	速やかに使用すること	25℃以下で6時間冷蔵庫で保存の場合は24時間	常温で保存し、3時間以内に使用すること。
規格(薬価) (2025.4)	250単位 (34,938円)	1300単位 (146,288円)	1000単位 (190,142円)	配合注(経過措置:26年3月31日) (268,272円)	1mg (82,739円)	500単位 (268,509円)
	2.5mL (268,272円)					
	5mL (536,544円)			3mg (157,343円)		
	10mL (1,073,088円)			5mg (398,849円)		

ノンファクター製剤等

2025年4月

分類	ノンファクター製剤			その他	
販売名	ヘムライブラ	アレモ	ヒムペブジ	コンコエイト-HT	PPSB-HT
製品画像					
分類	遺伝子組み換え製剤	抗TFPIモノクローナル抗体	抗TFPIモノクローナル抗体	血漿分画製剤	血漿分画製剤
一般名	エミシズマブ	コンシズマブ	マルスタシマブ	乾燥濃縮人血液凝固第八因子	乾燥人血液凝固第Ⅸ因子複合体
溶液量	0.4mL(12,60mg),0.6mL(90mg), 0.7mL(105mg) 1ml(30,150mg)	15,60,150mgは1.5mL 300mgは3mL	1mL	10mL	200単位: 10mL 500単位:25mL
半減期	29.0±3.26 日	109.9 時間	74.7 時間	15.0 時間(第八因子) 7.3 - 31.2時間(RCof)	20.3時間
用法	(先天性血友病A患者における出血傾向の抑制):通常、エミシズマブとして1回3mg/kgを1週間の間隔で4回皮下投与し、その1週間後(初回投与から4週間後)の5回目投与から以下のいずれかの用法・用量で皮下投与する。	通常、12歳以上の患者には、1日目に負荷投与としてコンシズマブ1mg/kgを皮下投与する。	通常、12歳以上かつ体重35kg以上の患者には、マルスタシマブ(遺伝子組換え)として初回に300mgを皮下投与し、以降は1週間隔で1回150mgを皮下投与する。なお、体重50kg以上で効果不十分な場合には、1週間隔で1回300mgに増量して皮下投与できる。	添付された注射用水全量で溶解し、緩徐に静脈内に注射又は点滴注入する。1分間に5mLをこえる注射速度は避ける。	添付の注射用水 10mL(200 単位製剤)あるいは25mL(500 単位製剤)で溶解し、静脈内に緩徐に注射する。
用量	1回1.5mg/kg(体重)を1週間の間隔 1回3mg/kg(体重)を2週間の間隔 1回6mg/kg(体重)を4週間の間隔 (後天性血友病A患者における出血傾向の抑制) 通常、エミシズマブとして1日目に6mg/kg、2日目に3mg/kgを皮下投与し、8日目から1回1.5mg/kgを1週間の間隔で皮下投与する	2日目以降は維持用量として1日1回、0.20mg/kgを皮下投与する。 なお、0.20mg/kgの投与を開始後、コンシズマブの血中濃度や患者の状態により、0.15mg/kgに減量又は0.25mg/kgに増量できる。		〈血友病A〉 通常1回に血液凝固第八因子活性で250~2,000IUを投与する(適宜増減)。 〈von Willebrand病〉 通常1回にリストセチンコファクター活性(RCof)で500~4,000単位を投与する(適宜増減)。	通常1回血液凝固第Ⅸ因子量200~1,200IUを投与する(適宜増減)。
貯法	2~8℃で凍結を避けて外箱に入れた状態で保存	2~8℃で凍結を避けて保存	2~8℃で凍結を避けて保存	10℃以下に凍結を避けて保存	10℃以下に凍結を避けて保存
家庭で保存する場合	室温(30℃以下)で保存した場合は7日以内に使用	使用開始後は室温(30℃以下)で保存し、4週以内に使用	室温(30℃以下)で保存した場合は7日以内に使用	記載なし	記載なし
溶解後の安定性等	記載なし	記載なし	記載なし	1時間以内に使用	1時間以内に使用
規格(薬価)	12mg(131,539円)	15mg (249,546円)	150mg (883,108円)	500単位(34,938円)	200単位(18,144円)
	30mg(294,927円)				
	60mg(543,226円)				
	90mg(776,517円)				
	105mg(889,496円)				
	150mg(1,217,985円)				